

平成18年度推奨の優良映画

平成18年5月推奨

『バルトの楽園』

配給: 東映

小学生、中学生、高校生、青年及び一般対象

第一次世界大戦時、徳島県鳴門市にあった板東俘虜収容所の所長を務めた会津若松市出身の陸軍大佐 松江豊寿を主人公にした作品。

松江は軍上層部の反対を押し切りドイツ兵捕虜を厚遇。終戦により帰国が決まった捕虜たちは、松江や所員、地域住民への感謝を込め、日本で初めての「交響曲第九番 歓喜の歌」を演奏した。

「人道主義」を貫く松江の方針の下、所員や地域住民の暖かい心に触れ、生きる喜びを見出していく捕虜たちの姿を描いたこの作品は、青少年の人間的な愛情を育て、豊かな人格形成に役立つものであり、推奨に値する。



2006年 『バルトの楽園』製作委員会

平成18年11月推奨

『蟻の兵隊』

配給: 有限会社蓮ユニバース

青年及び一般対象

「日本軍山西省残留問題」を描いたドキュメンタリー作品。

主人公・奥村和一氏が所属した陸軍部隊は、第2次世界大戦終戦後も武装解除を受けることなく、中国の内戦を戦うことになった。上官の命令により、戦うしかなかった奥村氏を始めとする元残留兵たちは、日本政府に補償を求めるも、政府は「兵士たちが志願して勝手にやったこと」と黙殺。奥村氏はこの問題の真実を解明するため、中国に渡り、その全容に迫っていく。

命令により戦地で人を殺害した辛い記憶、国に見捨てられた悲しい現実……。戦争の被害者でもあり加害者でもある奥村氏が、孤軍奮闘する姿が胸を打つ。戦争の愚かさを伝え、あの戦争がまだ終わっていないことを教えてくれるこの作品は、青少年の知識と教養を深め、命の尊厳さに対する敬けんな心を育てるものであり、推奨に値する。



[公式HPへ](#)

『蟻の兵隊』製作委員会

平成19年2月推奨

『筆子・その愛 ー天使のピアノー ー』

配給:現代ぷろだくしょん

小学生、中学生、高校生、青年及び一般対象

“障害児教育の母”と呼ばれた石井筆子の生涯を描いた作品。長崎県大村藩士の娘として生まれ育った筆子は、やがて“鹿鳴館の華”として社交界で活躍、津田梅子と共に女性の地位向上に力を尽くす。しかし、夫の急死、知的障害児であった娘の早世など、相次ぐ不幸が筆子を悩ませる。

そんな中、知的障害児教育に取り組む「滝野川学園」の創設者・石井亮一と出会った筆子は、その活動に共感し、亮一の妻として学園経営を支えていくことになる。筆子は亮一亡き後も、学園の子どもたちを自分の子のように慈しみ、様々な困難にも負けず、彼らに無償の愛情を注ぎ続けた。

時は明治、社会福祉という言葉もない時代、知的障害の子どもたちのため、全力で戦い抜いた筆子の姿は、青少年の人間的な愛情を育て、豊かな人格形成に役立つものであり、推奨に値する。



[公式HPへ](#)

[優良書籍・映画トップに戻る](#)